

# 思考力・判断力・表現力を問う定期考査問題づくりのヒント<国語>

定期考査は、生徒の学習状況を把握し学習指導の改善・充実を図る大変重要なものです。

## 定期考査の意義

### 教師

単元の指導の目標、内容、方法を明確にしたり、学習指導を改善・充実したりする。

指導と評価の  
一体化

### 生徒

学習したことの意義や価値を実感し、目標や課題をもって学習を進める。

知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を評価する定期考査問題の作り方の一例を、次の【ステップ①】～【ステップ⑤】に示します。**単元を通して生徒に身に付けさせるべき力を明らかにするために、単元の学習に入る前に定期考査問題の作成**に取り組む学校も見られます。



## 定期考査問題づくりの構造

### 【ステップ①】出題のねらいを明らかにします。

伝えたい事柄や根拠を明確にして、自分の考えを書くことができる。など

### 【ステップ②】期待する正答を作成します。

必要な知識・技能を活用して、思考・判断・表現している具体的な記述例を作成します。

「何を、どのように思考・判断させて、表現（記述）させるか。」

をあらかじめ明確にすることが大切です。

これが、正答の条件（採点基準）の作成にもつながります。

単元の学習に係る学習指導要領の目標と内容を、「解説」をもとに、明確にします。

### 【ステップ③】知識・技能の内容を明らかにします。

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
  - ・言葉の働き
  - ・話し言葉と書き言葉
  - ・漢字
  - ・語彙
  - ・文や文章
  - ・言葉遣い
  - ・表現の技法
- (2) 情報の扱い方に関する事項
  - ・情報と情報との関係
  - ・情報の整理
- (3) 我が国の言語文化に関する事項
  - ・伝統的な言語文化
  - ・言葉の由来や変化
  - ・書写
  - ・読書

### 【ステップ④】思考・判断・表現の方法を明らかにします。

- 【思考・判断】  
比較する。分類する。関連付ける。など
- 【表現】  
・文章や自分のもつ情報等の複数の情報を整理して、説明する。など
- ※説明の一部（穴埋め）を補完したり、どの説明が正しいかを選んだりする（選択式）場合もあります。

### 【ステップ⑤】知識・技能を活用して、思考・判断・表現する場面や問い方を設定します。

- 生徒が自分の考えを表現しやすいように、体験したことを想起できる学習場面や生活場面を設定する。
- 生徒が比較したり、関連付けたりして考えることができるよう、必要な情報（資料の種類や数等）を準備する。
- 生徒が表現する際の条件（表現する場面がわかる問い方、解答の内容や形式等）を整える。

平成31年度県立高校入試問題を用いて、【ステップ①】から【ステップ⑤】に沿って具体的に説明します。



H31 **五**

F中学校では、毎年F幼稚園の幼児とのふれ合い活動を行っている。左の【資料1】は中学校から配布された資料の一部、【資料2】は幼稚園から配布された資料の一部である。これらを読んで、後の問に答えよ。

【資料1】

【幼児とのふれ合い活動】

〈活動名〉

「秋を見つけよう」

〈目的〉

- ・幼児に、季節を感じるものを見つける喜びを味わってもらおう。
- ・幼児に、身近な植物などへの関心をもってもらおう。
- ・幼児に、友達と一緒に活動する楽しさを感じてもらおう。

〈内容〉

秋を感じるものを探す。

(様々な色の木の葉、どんぐり、松ぼっくり、すすき、いちょう、コスモスなど。)



【資料2】

【F幼稚園の幼児について】

- ・自分でできたり考えてやり遂げたりしたことを、ほめられたり認められたりすると、達成感を味わい自信をもって行動しようとする。
- ・自分がしていることや言ったことについて問いかけられると、自分の言葉で答えようしたり、興味をもって行動しようしたりする。
- ・生命の不思議さや尊さに気付くと、命あるものを思いやり、大切にしようとする気持ちをもって関わろうとする。

問 「秋を見つけよう」という活動を行うにあたり、グループ内で、幼児にかける言葉についての考えを述べ合うことになった。あなたならどのようなことを述べるか。次の条件1から条件4に従い、作文せよ。

条件1 文章は、二段落構成とすること。

条件2 第一段落には、「秋を見つけよう」という活動において幼児に対して、どのような場面や、どのような言葉を書けるかを、【資料1】【資料2】を参考に具体的に書くこと。

条件3 第二段落には、第一段落で書いた言葉をかける理由を【資料1】の〈目的〉、【資料2】のそれぞれから必要とする情報を取り上げ、それらと結び付けて書くこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、十行以上、十二行以内で書くこと。

【ステップ①】出題のねらいを明らかにします。

複数の資料を目的に応じて読み、情報を整理して、自分の考えに対する理由を根拠を明確にして書くことができる。

「何について、どう考えて、どう表現するのか」を明確にします。

【ステップ②】期待する正答を作成します。

B書くこと

2年 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

【ステップ③】知識・技能の内容を明らかにします。

複数の資料の情報と自分の持つ情報を、目的に応じて比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したりして、情報を整理することができる。

【ステップ④】思考・判断・表現の方法を明らかにします。

【資料1】(活動の目的や内容、昨年度の様子)と【資料2】(幼児の様子)の情報から、幼児に話しかける場面や言葉について考えをもち、その言葉を選んだ理由とともに説明する。

【ステップ⑤】知識・技能を活用して、思考・判断・表現する場面や問い方を設定します。

- 生徒が自分の考えとその理由を表現するために、学校や社会生活での類似の体験を想起できる「幼児とのふれ合い活動」の場面を設定する。
- 生徒が自分の考えの理由を複数の視点(活動の目的と幼児の特徴)を関連付けて述べるように、二つの資料を提示する。
- 「グループの話し合い」という考えを表出する「相手」や「目的」がわかる問い方をする。
- 表現する際の段落構成や文字数制限などの条件を整える。